

碩心

可認行 会風岳 院学吟 日本詩吟 日碩 法人神 社団奈川

5年9月現在会員数	158名	5年9月(254号)	萃愛
地区区	233名	行	岳者
地区区	433名	集	岳者
子山地地区	436名	編	岳
返葉大		村	
(合計)		中	

行事予定

◎第1回神奈川地区吟道大会

日 時・10月17日(日)

場 所・海老名文化会館

(県本部・聖吟・さがみ・正心)

◎葉山町文化祭詩吟詩舞の会

日 時・10月24日(日)10時より

場 所・葉山町福祉文化会館大ホール

◎神奈川県本部吟行会

日 時・10月30日(土)〜11月1日(月)

行 先・中尊寺・三陸海岸他

参加者・碩心会より13名

高令者表彰について

右記神奈川地区大会に於て、碩心会より左記九名の方が表彰されます。

- 井沢岳潮(諏訪) 森田暁岳(大船B)
- 守谷崇岳(一色A) 山岸洋岳(吟甫)
- 黒沢華岳(風早) 長島正風(一色A)
- 鈴木静山(堀内・D) 原 武泉(唐木山)
- 吉田貞山(大船B)

右の方に表彰状と額縁が贈られます。これからも益々の御精進を。

岳風先生の生い立ち (1)

(少年時代〜青年時代)

◎生いたちと先祖

祖宗範・木村岳風は、明治32年9月20日、長野県上諏訪町北沢(現諏訪市北沢)の、士族松本百造家の長男(姉3人、弟2人)として誕生した。

松本家の興りは、遠く源頼朝の家臣からと言う。その後、頼朝家を落去し、信州諏訪郡栗林郷上宮寺村(現茅野市中河原付近)に寓居、木村市郎兵衛と号し、諏訪大祝家に仕えた。初代市郎兵衛は、諏訪一円が武田領になったのに従い、武田信玄に仕え手厚い信任を得、信玄より直々実名、郷藏を賜り、また、甲州の巨摩郡に屋敷を拝領、その後、武田家滅亡に伴い諏訪郡下桑村(現諏訪市北沢)に帰り、代々の領主に仕え侍の列に入ってきた豪農であった。

◎改 姓

天文8年4月中旬頃、木村市郎兵衛は諏訪大祝家で行なわれた鹿狩に参加し、その行く途中、甲信国境付近の葛木坂にて大鹿を押留松という松の根元にて見事捕獲、その首を打

ち落した。これを見ていた殿様や家臣一同、その豪胆さに大拍手。吉祥であると褒賞も受け、松木」という苗字を拝領した。また、これより定紋を薦、または鹿の角を松に改められ、更に、仕止めた場所の薦木坂を、それ以後、松木坂とまで改称された。この松木坂は今、山梨県北巨摩郡小淵沢町に現存しているという。

◎少年期

彼は母方に似て体はずんぐりとして骨格も太く、同じ年頃の子供達より一まわり大きかったという。また、上に三人の姉という影響からか、あるいは家風がそうさせたのか、静かな性格、というよりは無口な、よその子供達と一緒に遊んでいてもあまり目立たない全く平凡な存在であった。また、祖父百吉老人をして「この児は福相じゃ、ホレ、耳をみてごらん、良い耳じゃろう。な、この鼻はどうだな。これは大物になる相じゃ、ド偉い奴になるかも知れん」と言わしめている。

◎詩吟と長姉

明治40年4月、八才で諏訪町立高島尋常高等小学校へ入学。

この頃、製糸会社片倉組の熊本工場に勤り

っていた長姉まさが帰郷。この「まさ」が熊本の寄宿舎生活中に覚えた同地での詩吟を、歌好きであった彼に教えたのが、詩吟上達に大きく影響した。また、彼は学校へ行くようになってから吃りぐせがついていた。長姉まさは、この吃りぐせを矯正させるためにも詩吟を熱心に教え込んだのである。

因に、この頃の諏訪地方では明治維新前後からの郷風というか軽佻浮薄を嫌い、根強い純日本的な気風が残っており、詩吟、琵琶が非常に流行していた。彼が姉から習った詩吟は、当時、この信州一円で吟じられていた吟法と違い、多分に肥後調の豪快な、そして幾分とも洗練されたものであり、彼の美声と相俟って吟の評判はたちまち学校中に広まったという。

つづく
(岳風会発行準師範研修講座テキストより)

大船地区温習会に向かつて

大船A 山 口 夕 岳

まだまだ先の事と想っていた大船地区温習会も、八月一日会場の申し込みに並んだ時から現実味を帯びてきました。

木村地区長、岩崎恵岳先生、山口の三名が七時半に会場入口に並ぶ。その時すでに十名程が待っていた。抽選ということで九時受付開始であるが先着順である。何しろ電話と交互に受付けているので、残念ながら一名違いで、予定していた日曜は全部決定済みで、十一月十三日の土曜日にやむをえず決めて帰る。

そして八月九日夜七時から、第一回の会合を私達の教場で持つ事にした。各教場から、森田、木村、宇都宮、鈴木(幸)、岩崎の先生方と山口の六名が集まった。全員が役員で頑張らなくては到底無理である。そして吟の割当もなかなかむずかしい。

第一回の会合でもあった夏休みということもあり、何もかも今回でという訳にはゆかない。これから大変なプロ編成もある。ともかく会場を確保出来たことが一歩前進だと思っています。

私達は、温習会が無事に行なわれる事を願って全力を尽くしますので皆様の御協力を心からお願いたします。

日 時・11月13日(出)

場 所・中小企業労働研修センター4階
(JR戸塚駅下車)

漢詩 二題

宇都宮 徳 岳

今回はイングランドの緑の田園と名勝を巡り、各地のマナハウスに泊し、麗しの六月の英国を満喫して参りました。

その中で忘れることの出来ないのは、見渡す限りの牧草地と農耕地の緑の世界に羊の群が点在する一方、白鳥が浮ぶ川のほとりの葦葎根に白い壁の農家が在って、その囲りの花園にはカラフルな花が咲き誇っており、まるで一幅の絵を見る様に美しい風景でした。

遊六月英国田園

(上平声十二文韻平起五音絶句)

廣 遼 耕 牧 地

廣遼たる耕牧地

処 処 見 羊 群

処処に羊群を見る

水 鳥 清 流 泛

水鳥清流に泛ぶ

農 家 花 苑 薫

農家の花苑薫る

各地を巡って最後にロンドンに二泊してショッピングや観劇をする間に、九年前に訪れて感動した大英博物館を再び見学して、感動を新たにしました。特にこの度初めてエジプトのミイラと女性用の金の飾棺を見て、古代文化の粹である美しい金棺に感動しました。

再訪大英博物館

(下平声十一尤韻仄起七言絶句)

當 館 名 聲 天 下 尤

古 今 遺 寶 普 茲 収

新 觀 俟 及 金 棺 美

再 得 來 機 感 動 稠

當館の名声天下に尤たり
古今の遺宝普く茲に収まる
新に觀る俟及の金棺の美なるを
再び來機を得て感動稠し

發光音は正しく

白井 寿 岳

歌手藤山一郎さんが、去る8月21日、82才で天寿を全うされた。デビューして六十年余り。昨年五月国民栄誉賞を贈られ、その表彰規定には「社会に明るい希望を与えることに顕著な業績」とあり、正しい日本語を大切にし一点一面をゆるがせにしない、頑固なまでの藤山さんの姿勢は「楷書で歌う」と高く評価され、ご存知「青い山脈」始めに残る数々の歌を多くの人に残してくれた。

大みそか恒例のNHK「紅白歌合戦」のフイナレーで、藤山さんのタクトでへ螢の光、窓の雪：V出場歌手の大合唱となるのだが、ご本人は決して歌わない。螢を、この歌は「ホタル」とタを高く歌う。正しくは「ホタル」でなければならぬ。だから「歌えるわけがないじゃございませんか」と言つた話はいまにも有名。吟詠にかかわるわれわれとしては、まこと胸のすくような言葉である。

田園雜興 伊藤 東涯(教一・25)

矮籬風圧して 牽牛掛り

老屋雨蒸して 木耳生ず

戸戸の明燈 夜作を催し

村村の喧鼓 秋成を賽す

これは秋の風物詩であるので、大会等に出吟されることがある。教本の通釈で意味をのみこめば覚え易い日本漢詩であるが、耳で聴くかぎりではほとんど内容はわからない。

ワイリ・ケンギユウ・ロウオク・モクジ・シヨウズ・ココ・メイトウ・ヤサ・ソソノ・ケンコ・シユウセイ・サイス

右のように、漢語（音読み）の多い詩は舞台での吟詠は避けた方が賢明であろう。

美空ひばり、石原裕次郎の歌う歌詞は、高音であろうが低音であろうが、一字一句が明瞭に聴きとれた。さすがであった。漢詩は訓読とは言え、前例のように音読の詩語が多いので、日本人の耳になじまない語が続くと、聴衆は外国語（音読みは中国語、すなわち外国語のなまり）の歌を聞かされていることになる。漢詩は、平仄に従って完璧な詩型と韻律で作られているので、日本人になじまない詩語が続くと、いくら訓読とは言え、耳からだけでは詩意は通じようがない。総本部の二十一世紀対策としては、青少年や若年用の漢詩を厳選するのが喫緊の急務であると思う。

一粒の種

岩崎 恵 岳

思いおこせば昭和62年、第92回全国吟道大会が南国宮崎で行なわれ、私も参加いたしました。そして私達神奈川県本部一行は、そのあと各地の名所を巡りました。

其の日は鶴戸神社参拝でした。途中でバスを降り、三々五々歩いて着いた神苑は広々としていて、雨の他には物音ひとつない静かなたたずまいでした。苑内の処々に、ちようど花を終えた浜木綿が実を結び、其の大きな種がいくつもこぼれていて旅情を誘いました。その時ふと、この種を蒔いて育ててみたいと思ひ、内緒で一粒持帰り鉢に埋めました。

この事はすっかり忘れてしまっておりましたが、或る日ふと、元気に芽を出しているのを見つけました。それからは枯らしたら大変と、大事に大事に育てて六年目。株も大きくなり、鉢では無理と思ひ、庭の隅に移して四月位過ぎた頃、何と大きな蕾がぐんぐん伸び、念願の花がついに咲きました。月下美人のように美しい花と香りを楽しむ程の優雅さはないが、全国大会の記念ともなるべき一粒

の種が、遅ましく生を受け、美事に開花したことが何よりも嬉しいことでした。

はるばる海を越えて大会に参加、女性72名の大会吟を吟じ終えたあの時の感激も新たに、何時迄も元気で吟道に精進できるようにと、改めて心に誓いました。

(支部長変更)

唐木山支部長鈴木要山退会に付213広瀬晴風に

(移籍)

494 臼井照岳 逗子Bより堀内・Bへ

(入会)

682 長尾健介 葉山町一色一〇〇一九

(一色A) ☎〇四六八―七五―六八〇六

683 瀧橋正山(再) 葉山町堀内二九八

(諏訪) ☎〇四六八―七五―一〇三六

684 海藤喜代子 葉山町一色五三〇―一五八

(唐木山) ☎〇四六八―七六―二四九三

(退会)

330 榎 玲風(真澄) 416 阿部正泉(唐木山)

662 安室明美(一色A)

又々超大型台風13号が今夕鹿児島に上陸。そのあと日本列島縦断とか。行事の多い季節となり週末ははずれてほしいと心に祈る。